

身近な話題などお知らせください！
情報をお待ちしています



参加者は講演を熱心に聞き入った

歴史を生かしたまちづくりと観光を

柳川のまちづくりを考える市民の集い

柳川ににぎわいを取り戻そうと「故郷・柳川のまちづくりを考える市民の会」は5月19日、あめんぼセンターで市民の集いを開催しました。集いには、65人が参加。九州大学大学院の菊地成朋教授が「歴史あるものを残すだけでなく、新たな要素の追加を」と講演した他、九州産業大学の千相哲教授の講演や意見交換が行われました。同会世話人代表の松尾久さんは「歴史を生かしたまちづくりの必要性を感じてもらえれば」と思いを語りました。

ナイターでの戦いが開幕

第37回柳川市長杯争奪軟式野球大会

夏の夜の恒例となった市長杯争奪軟式野球大会が5月13日、市民大和グラウンドで開幕しました。大会には、市内やみやま市から14チームが参加。4パートに分かれて予選を行い、各パート上位2チームが決勝トーナメントに進出し、優勝を争います。北川教育長の始球式で始まった開幕戦は、JA柳川と柳川ロイヤルズが対戦。JA柳川が機動力を生かした野球で14対4と快勝しました。決勝戦は、7月9日に市民三橋グラウンドで行われます。



市長杯を目指して夜の熱戦が繰り広げられた



沖端の町内を約4時間かけて巡る「御神行」

初夏の訪れを告げる「水天宮さん」

沖端水天宮祭

5月3日から5日まで開かれた沖端水天宮祭は、晴天にも恵まれ、多くの家族連れなどでにぎわいました。初日は午後から、和装の若手地元住民約30人が、太鼓を打ち鳴らしながらみこしを押し、町内を巡る「御神行」が行われました。また、水天宮横の掘割には舟舞台「三神丸」が浮かべられ、地元子どもたちが水天宮囃子の演奏や芝居を披露。たくさんの参拝客が見物したり、掘割沿いに立ち並んだ露天を巡ったりして、初夏の柳川の祭りを楽しみました。

観光客を笑顔でおもてなし

第2回おもてなしの心大作戦

西鉄柳川駅からの観光客を歓迎するため、ゴールデンウィーク期間中の5月5日、同駅でおもてなしの心大作戦が行われました。この催しには、同駅の呼びかけで市消防団や婦人会など約60団体、約300人が参加。線路沿いでは参加者が同駅に止まる特急列車の観光客へ向けて歓迎したり、柳川高校吹奏楽部やダンス部、野球部がロータリーの広場で演奏や踊りを披露してもてなしました。同駅の藤木清彦駅長は「参加者が昨年より増え、盛大にできました」と話しました。



特急列車に乗る観光客を歓迎する参加者

水に慣れると児童に笑顔

水が苦手な小学1年生の水泳教室

5月15日から25日にかけて、市民温水プールで泳げない小学1年生を対象とした水泳教室がありました。教室は前期と後期に分け、それぞれ4日間の日程で実施。前期には35人が参加しました。「児童が挑戦してみようと思えるように楽しい教室を心がけました」と話す同プール施設長の丸塚祐亮さんの言葉通り、教室はすべり台やボールを使って児童が楽しく水に慣れることができた内容。参加した児童は「顔を水につけられるようになった。参加して良かった」と笑顔で話しました。



コーチと一緒に水に慣れる児童

水も人も
キラリ

川柳

きらめきて揺れる若葉や試歩の道

黒田和代 (吉富町)

応募総数2222句

右足を一步。左足を一步。これまで何気なかった歩みの何と貴重なことか。若葉から洩れる陽光。きらめいているのは若葉だけではなく、試歩の先にある「これから」。昔も今も地球儀のどこかでくすぶる戦火。まさにもなく人も地球も揺れる吊り橋の途中にいる。

あちこちに地球の悲鳴大地揺れ

野片義博 (隅町)

舟舞台三味引く撥の袖は揺れ

古賀麗子 (吉原)

木もれ陽に揺れる若葉と君がいる

甲斐田園一 (吉富町)

ひと揺れも崩れそうなる牡丹かな

大橋ミヨ子 (六合)

人はみな命晒して揺れている

森 フチエ (弥四郎町)

梅雨晴れ間小枝を揺らす幼な鳥

浦 哲之 (栄)

タンポポは揺れて流れて夢を追う

石川百合子 (材木町)

仏壇の揺らぐろうそく願ひ込め

徳永エツ子 (徳益)

震災は二年過ぎてても揺れている

熊丸菊子 (蒲生)

まだ迷う右か左か揺らす風

砥上征夫 (鷹ノ尾)

花菖蒲揺れる心やケアの夫

吉開綾子 (筑紫町)

柳揺れ我が決心も揺れ動く

荒巻ミエノ (南浜武)

断髪式鬚の未練が揺れている

坂田信幸 (鷹ノ尾)

アメリカに揺さぶりかける北のドン

江口美雪 (今古賀)

心揺れ人と人が出会うんだ

佐田輝喜 (明野)

おぼけはねゆるらゆるれるたのしそう

中原由美 (新船津町)

ゆれてる雨がふるたび心がゆるる

西田妃蘭梨 (中島小6年)

おとつとが風船もつてとんじやった

堤川俊也 (中島小5年)

反対意見見れる私のこの思い

西田千夏 (中島小3年)

川柳を募集しています。選句者は梅崎流青さん。7月の課題

田中陽向 (中島小6年)

は「置く」です。入選作品は7月1日号に掲載します。

●応募方法 川柳と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファク

スまたは直接、柳川庁舎企画課広報広聴係(☎77・8425、FAX74・5520)へ、6月14日(※必着)までにお送りください。

牛二頭置く草原という画布に

流青